

はじめに

イメージしてみてください。第一歩は、『我が事』として捉えることから始まります

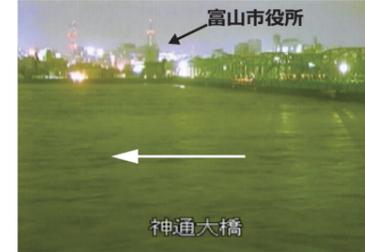
深夜から降り続く雨が勢いを増し、普段穏やかで見慣れているあの川が荒々しく姿を変え、見たことのない川幅となって山肌から削られた樹木を押し流しています。やがて、耐え切れなくなった堤防が決壊！河川がはん濫！土砂混じりの濁流が、わたしたちの街へ押し寄せてきます。

そんな事態に直面したとき、あなたはどの行動をしますか？

身の危険が迫る状況に適切に対応するためには、リスクを知り、どのように避難すべきかを平時から考えて備えておく必要があります。

近年、全国各地で毎年のように発生している大雨による被害、いつ我が街で起こるか分かりません。あなたとあなたにとって大切な人の命をまもるために、ぜひこの冊子を見て考えてください。

神通川（神通大橋付近）の状況
平成16年台風23号ピーク時



富山河川国道事務所提供

あなたの避難は？

洪水ハザードマップを見てください (裏表紙の内側ポケットに入っています)

このページでは、避難行動を想定しておくためにマップを見るポイントを簡潔に示します。

あなたの場合はどう行動すべきか、確認しましょう。



あなたの避難は？

ステップ1 自宅等の周辺に浸水のおそれがありますか。

- ・地区詳細図では、2種類の洪水による浸水を想定し、それぞれ浸水が想定される区域（着色あり）を示しています。
- ・マップに示す「浸水深の目安」と照らし合わせて、何階まで浸水するおそれがあるか、確認しましょう。

5.0m以上	(3階床上浸水以上)
3.0m以上 5.0m未満	(2階床上浸水)
0.5m以上 3.0m未満	(1階床上浸水)
0.5m未満	(1階床下浸水程度)



ステップ2 どこへ避難すれば良いでしょうか。

- ・避難行動には、大きく3通りあります。
 - ① マップに載っている避難場所等への避難
 - ② 近隣の安全な場所や建物への避難
 - ③ 屋内での安全確保
- ・状況に応じた避難行動をとれるよう、想定しておきましょう。



ステップ3 避難する経路に危ないところはありませんか。

- ・避難するときは、夜間や道路冠水などで路面の確認が十分に出来ないことも想定されますので、想定される避難経路に「柵のない水路」や「蓋のない側溝」、「段差」など、危ないところがないか、一度現地を確認しましょう。



ステップ4 避難情報や避難のタイミングを知っておきましょう。

- ・大雨や台風情報、または避難訓練など、機会があるごとにマップを見直すことで、いざというときに慌てないよう備えましょう。



避難の心得

1. 自分の命は自分でまもる
2. 自分の判断で早めの避難
3. みんなで避難（一人で避難しない）

富山市で起きた水害の記録

● 平成16年の台風23号にともなう豪雨



神明地区の浸水状況

神通川と井田川の合流部付近などで浸水被害（床上浸水 267 軒、床下浸水 338 軒）が発生しました。

● 昭和44年7月～8月の豪雨



水橋地区の浸水状況

増水した白岩川

神通川の増水で富山大橋の橋脚が沈下し、30日間不通となりました。

常願寺川などのはん濫により、床上浸水628軒（ほとんどが水橋地区）などの浸水被害が発生しました。

参考文献 富山市史編修委員会『富山市史』

次ページ以降では、理解を高めることでよりの確な避難行動につながる関連情報について、詳しく解説しています。